

教員名	塩澤康平	所属学科	経済学科
<p>【ゼミでは何を学ぶのか】</p> <p>様々な経済現象を理解するための基本的な考え方とその応用方法を学びます。具体的には、ミクロ経済学の基礎と応用です。また、関連して必要となる、確率・統計、最適化、プログラミングといった知識と技術も学びます。</p>			
<p>【どのように学ぶのか】</p> <p>まずは、2年次後期と3年次前期を通じて、ミクロ経済学と統計学の基礎について理解を深めてもらいます。そのために、教科書を輪読し、プログラミング演習で内容を確認します。また、演習問題を解き、その解説のプレゼンテーションをしていただきます。3年次後期では、教科書の引用文献や興味関心のあるトピックから出発して、研究論文を調査し、その調査結果をプレゼンテーションしていただきます。</p> <p>4年次では、各自の興味があることをもとに、先行研究を調査し、研究テーマを探索します。研究テーマは自由です。経済に関わることなら何でも研究テーマになる可能性があります。そして、各自の設定したテーマについて研究します。</p>			
<p>【学んだことはどのように生かせるのか】</p> <p>ミクロ経済学は、普段の買い物から、マーケティング戦略、経営戦略、経済政策の策定といった、様々な場面で活用されうる基本的な道具です。さらに、ミクロ経済学の目的のひとつは「現実とよく似たモデルをつくる」ことですが、この考え方は他の科学でもある程度共有されるものです。よって、このゼミの学習で身につける様々な考え方や知識や技術を活用することにより、新しい科学技術や社会経済の動向についてもより良く理解できるようになるでしょう。</p> <p>また、ゼミでの活動を通じて身につけるリサーチ能力、論理的な思考と説明の能力、資料作成やコミュニケーションの能力は、仕事や趣味や社会活動などの様々な場面で生きるでしょう。</p>			
<p>【おすすめの入門書・基本テキスト】</p> <p>坂井豊貴『ミクロ経済学入門の入門』（岩波新書） 伏見正則、逆瀬川浩孝『Rで学ぶ統計解析』（朝倉書店） John V. Guttag著、久保幹雄監訳『Python言語によるプログラミングイントロダクション第2版』（近代科学社）</p>			
<p>【まだ見ぬ君へのメッセージ】</p> <p>SNS、ゲーム、音楽、映画、スポーツなどに熱中している人やコミュニティがあるのと同じ様に、学問や技術に熱中している人やコミュニティも世界中に存在します。学問に限らずどんなものでも良いので、なにか興味があることについて調べて、熱中してみてください。</p>			